

わが

ものづくりのまちとしての 持続的発展を目指して

三條市は新潟県の中央部に位置する人口約9万4000人の自治体で、金属加工業が盛んな「ものづくりのまち」です。高い技術力を誇る金属加工業を中心とした製造業をはじめ、その製品を日本全国、世界各地へと届ける卸売業がこの地域の発展を支えてきました。

また、市内を流れる大河「信濃



洗練された製品を作り出すものづくり（鍛冶）の現場

川」のほとりに広がる幻の洋梨

「ルレクチエ」に代表される、県内有数の果樹地帯や農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に選定された「北五百川の棚田」をはじめとする美しい田園風景など、四季折々の趣を見せる豊かな大自然に囲まれています。

鍛冶の歴史をくむ ものづくりのまち

本市のものづくりのルーツは鍛冶の歴史にあります。約400年前、信濃川の度重なる氾濫に苦しむ農民を救済するため、江戸から釘鍛冶職人を招き、農家の副業として和釘の製造法を指導、奨励したのが始まりとされています。当初は農家の副業として和釘が作られていましたが、やがて鍛冶の専門業者が現れ、製造される品目も釘

から鎌、鋸、包丁へと広がっていきましました。

この和釘づくりをルーツに持つものづくりの技術は、伝統を受け継ぎながらも時代と共に進化し続け、現在では、三条鍛冶の伝統を受け継ぐ利器工器具、キッチン用品、大工道具、測定器具、園芸用品、アウトドア用品、リビング用品、



本市のものづくりの原点であり、現代では伊勢神宮の式年遷宮で用いられている和釘

品、住設機器などの金属加工製品の製造に応用されています。とりわけ近年は、アウトドア人気の高まりの中、アウトドア用品の名だたるブランド、メーカーが集積するとともに、それらのアウトドア用品を存分に楽しめる豊かな自然環境も合わせ持つ本市の魅力に注目が集まっています。

産学官による「三條市未来 経済協創タスクフォース」

本市はこれまで、全国的にも「ものづくりのまち」として一定の評価、認知をされてきましたが、刻々と変化する社会経済情勢の中にあっては、この先も「ものづくりのまち」として持続的な成長を遂げていくことは決して容易ではありません。

国際情勢や経済状況が目まぐるしく変わる中で、市内企業各社をはじめ、さまざまなプレーヤーがおのおのの課題に真摯に向き合っています。地域経済全体を持続可能なものとするためには、各

レーヤーが抱える課題や地域経済の現状を関係者間で共有し、それらを共通のビジョンに落とし込み、その下に採るべき方策を実行していく必要があります。

そこで、ものづくりのまちとしての持続可能性を追求していくことを狙いに、本年度、産学官からなる「三条市未来経済協創タスクフォース」を設置しました。このタスクフォースにおいて、地域経済の将来ビジョンのほか、そのビジョンに基づく具体的戦略、戦術の策定に取り組んでいます。

タスクフォースの議論において、大きなテーマの一つが「雇用労働政策」です。管内ハローワークの有効求人倍率に目を転じると、近年は恒常的に全国平均を上回る状況にあります。このことは、新たに人材を求め

るほどに経済活動が堅調であるという証しであると同時に、それに対応する人材が不足していることをも意味しています。また、人口動態に関しても、若年層の転出超過が課題としてあります。



実践力を学ぶ魅力的な環境（三条市立大学「ものづくりシアター」）

こうした状況が地域経済の成長の足かせにならないためにも、首都圏などの都心部へ若者が流出してしまう原因を把握し、地域としての「雇用競争力」を高めていくことに取り組んでいきます。

ものづくりのまちの次代を担う人材の育成

ものづくりのまちとしての持続可能性を高めていく上で鍵を握る存在が、令和3年4月に開学した三条市立大学です。

三条市立大学は、学修と実践的な技術感覚を養う産学連携実習を特長に持つ、工学と技術のマネジメントを融合したカリキュラムにより、ものづくりの伝統と最先端技術を学ぶことができる、新しいスタイルの工学系大学です。

ものづくりの盛んな当地域に蓄積されたさまざまな知識や技術、経験に学び、イノベーションを起こしてこれからの高度なものをづくりをリードする人材「創

造性豊かなテクノロジー「造」の育成を目指しています。

三条市立大学の特長である産学連携実習は、多様な加工技術が集積する当地域全体をキャンパスとして捉え、数ある企業から実習先を選択し、この地域の最先端のものづくりを学ぶことができます。

令和6年度に最初の卒業生を送り出すこととなる三条市立大学と

プロフィール

- ◆ 面積 431.97km²
- ◆ 人口 9万4061人
- ◆ 世帯数 3万6871世帯

〔将来都市像〕豊かな自然に恵まれた歴史と文化の息づく 創意にみちたものづくりのまち

〔まちの特徴〕長い歴史に培われた世界に誇るものづくりの技や四季折々の豊かな自然など、多彩な魅力にあふれるまち

〔市町村合併〕平成17年5月1日、三条市、栄町、下田村の3市町村が合併



三条市長
滝沢 亮



市内企業との緊密な連携を図り、このまちのものづくりの未来を支える有為な人材の育成と地域への定着に取り組んでいきます。これらを中心に、本市のアイデンティティであるものづくりを時代と共に進化させ、持続可能な次世代型の「ものづくりのまち」の実現に向けて取り組みを進めてまいります。

〔特産品〕作業工具、利器工匠品などの金属加工製品、ルレクチ工、桃、車麩、三条カレーラーメン
〔観光〕オープンファクトリー、キャンプ・ラフティング・フライフィッシングなどのアウトドアアクティビティ
〔イベント〕燕三条 工場の祭典、秘境八十里越体感バス、三条マルシェ、三条風合戦、栗ヶ岳スカイレース

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「変革と創造」の基本理念で 未来を切り拓くまちづくり

市原市は、房総半島の中央に位置し、千葉県内最大の368・16km²の市域を有しています。

北部の東京湾沿いには国内最大級の石油化学コンビナート群が立地しており、その内陸には高度経済成長と共に開発された大規模な住宅団地が点在し、中部から南部には水と緑豊かな里山の田園風景

が広がる、広域で多様性に富んだまちです。

「変革」し続ける行政経営

本市では「変革と創造」を基本理念に掲げる市原市総合計画の下、計画は作って終わりではなく、実行し成果を上げてこそ計画であるとの強い信念を持って行政経営を進めています。

常に市民ニーズを的確に捉えるため、市民対話の機会を数多く設け、市長として直接、意見交換を行い施策に反映するなど、市民との対話が本市の日常風景になっています。

また、年3回のシーズンレビューによる全部局の職員との対話も繰り返し返

し行いながら、計画・予算・改革が一体化した「トータルシステム」により、実行計画を策定することで施策効果を高めました。

実行計画はローリング方式を導入し、3年間の計画を毎年度策定することにより、柔軟かつスピード感を持って施策を展開しています。一例を挙げると、子どもたちを熱中症から守るため、長年の懸案であった小中学校（全63校）へのエアコンの一齐整備を決定し、約1年で整備を完了した結果、新型コロナウイルス感染症の拡大により、夏季休業を短縮した際も快適な環境下で授業を実施できました。

SDGsのシンボルとなるまち

令和3年5月、千葉県内の自治体として初めて、国から「SDGs

未来都市」および「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。モデル事業ではポリスチレン樹脂のケミカルリサイクルに取り組み、国内有数の工業地帯を擁する本市だからこそ、企業・市民・行政が一体となり、「市原発サーキュラーエコノミー」として、2050年カーボンニュートラルの実現と地域経済の持続的発展の両立に挑戦しています。

SDGs未来都市2年目となる令和4年度は、本市が抱える地域課題を自分ごとと感じられるよう、市原版SDGs学習ゲームの制作に取り組みのほか、宣言制度や優れた取り組みを表彰するアワード制度を構築し、SDGs達成に向けた裾野を広げるとともに、先進的な取り組みを促進します。

歴史をつなぐ、人をつなぐ

令和2年1月、国の天然記念物である「養老川流域田淵の地磁気逆転地層」が、国際地質科学連合から国際境界模式地（GSSP）



豊かな自然と工業地帯が調和する多様性のまち ©市原市観光協会



臨海部コンビナートの工場夜景



市原歴史博物館 (I'Museum Center)

本年秋には市原歴史博物館が開館し、国産の有銘鉄剣で最古とされる「王賜」銘鉄剣の常設展示など、本市の貴重な文化財を周辺に見ることが可能になるほか、千葉大学との連携による「触れる展示」など特色ある展示を行い、併設する歴史体験館では発掘体験などもできます。

に認定され、約77万年前から12万6000年前の地質時代の名称が「チバニアン」と命名されました。これは日本初の快挙であり、本年5月にGSSPであることを示すゴールドenspアイクを設置しました。世界的にも希少な地層の価値や魅力をお伝えできるよう、現在、周辺環境の整備を進めています。また、かつて上総国の国府が置かれた本市には、先人たちによって培われてきた貴重な歴史遺産が数多く残されており、その保存・継承や歴史遺産を支える人づくりに取り組んでいます。

さらに、市内全域をミュージアムと位置付けるフィールドミュージアム構想の下、マップやスマートフォンを使って市内に点在する歴史遺産を巡ることができるよう整備を進めることで、貴重な歴史遺産の価値と魅力を市民の皆さまと広く共有し、郷土への愛着と誇りを醸成します。

ゴルフのまち、アートのまち

本市は、国内最多の32クラブ・33カ所を誇るゴルフのまちでもあり、年間160万人以上の皆さまにご利用いただいております。

本市ならではの地域資源であるゴルフ場との連携によるスタンプラリー「いちほらゴルフ場巡り33」は大変好評をいただいております。今後は、トップジュニアを対象とした練習環境の整備、全国のジュニアゴルファーを対象とした大会の運営など、ゴルフの聖地となるべく、新たな取り組みを推進します。また、アートによる地域の課題解決の取り組みとして、令和3年11月、3回目となる芸術祭「房総里山芸術祭 いちほらアート×ミックス2020+」を開催し、市内外から11万人を超える方々に

ご来場いただきました。アートの力でまちの魅力を高め、さらなる交流人口の拡大、関係人口の創出につなげるべく、芸術家が長期間地域へ滞在し、作品の制作や発表に取り組むアーティスト・イン・レジデンスによりアートを日常的に感じられるまちづくりを進めるなど、引き続き「変革と創造」の基本理念の下、未来を切り拓いてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 368.16 km²
- ◆ 人口 27万1264人
- ◆ 世帯数 12万9622世帯

〔将来都市像〕 夢つなぎ ひときらめ 未来創造都市 いちほら

〔まちの特徴〕 都心や成田・羽田の両国際空港から約1時間という好立地ながら、豊かな自然や里山が受け継がれた「首都圏のオアシス」

〔特産品〕 姉崎だいこん、いちほら梨、いちじく、養老のめぐみ（ブランド）



市原市長 小出 譲治



米、自然薯

〔観光〕 養老溪谷、房総里山トロッコ（小湊鐵道）、市原ぞうの国、市原湖畔美術館、上総国分尼寺跡、オリジナルメーカー海づり公園、千葉こどもの国キッズダム、高滝湖グランピングリゾート、チバニアン、工場夜景

〔イベント〕 上総いちほら国府祭り、いちほらアート×ミックス、市原高滝湖マラソン、五井大市、姉崎産業祭、五井臨海まつり、八幡臨海まつり



アート×ミックス2020+作品 (レオニート・チシコフ作)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

オンラインワンのまちづくり 「おいしい紅茶日本一のまち」「健康都市」として

豊かな自然に恵まれた 住宅都市

尾張旭市は、愛知県の北西部に位置し、名古屋市の中心まで電車で約20分という恵まれた

立地や、これまでの都市基盤整備などの結果、市制施行当時は約3万4000人であった人口も、現在では8万3000人を数える住宅都市として発展を続けています。

また、大都市近郊にありながらも、市の北東部には「森林浴の森日本100選」にも選ばれ、第70回全国植樹祭が開催された愛知県森林公園が広がっています。ほかに、豊かな自然に恵まれた公園がい

くつもあり、まち全体が身近に自然とつながれる環境で、緑に包まれた暮らしがあります。

本市の歴史は古く、弥生時代から居住地となっていたことが、市内各地で発見された遺跡によって確認されています。中世には開墾が進み、当時の豪族が住んでいた城跡が市内各所に分布し、中世末の歴史的な事件といわれる「小牧・長久手の戦い」の舞台ともなっています。そして、明治に入ると、近世の村が合併し旭村ができ、昭和23年には旭町となりました。そして、昭和45年に市制を施行し、令和2年には50周年を迎え、次の50年に向かって新たなスタートを切っています。

紅茶でまちをもっと元気に

本市は「日本一紅茶のおいしい

まち」として、魅力とにぎわいのあるまちづくりを進めています。

平成23年に、日本紅茶協会が「おいしい紅茶が飲める店」として認定したお店の人口1人当たりの店舗数が、日本一多い市として初めて認定されました。令和3年11月時点では、市内の15店舗が「おいしい紅茶の店」として認定されており、名古屋市、大阪市と同数で日本一となっています。

これは、有志の皆さんの熱心な取り組みにより実現できたもので、現在は市と市観光協会が一体となって、地域ブランドとしての定着化やさらなる魅力創出に取り組んでいます。同協会の主催で、毎年、国内の紅茶日本一を決定する「国産紅茶グランプリ」や、紅茶に関する催しを集めた「紅茶フェスティバル」が市内で開催さ



ネパールの茶園に作られた尾張旭市優先区画の茶畑

れているほか、令和元年には、本市が茶葉の産地でないことから、市の名前が入った紅茶の銘柄をつくる夢プロジェクト「Owarisahi Bari」が始動されました。市内で探し出した「お茶の木」から採種した種を、ネパールの世界的な茶園で育て、ゆくゆくは世界に尾張旭の名を広めようという壮大な計画です。

こうした夢のある取り組みは、



市域の6分の1を森林が占める自然に恵まれた住宅都市



紅茶と名産いちじくを使った商品開発プロジェクト「旭色」



「第9回健康寿命をのばそう!アワード」スポーツ庁長官優秀賞を受賞

市の呼び掛けで創設された健康都市連合の設立メンバーとして加盟を承認され、これまでにさまざまな施策に取り組んできました。

本市の特徴的な事業としては、健康づくり事業に積極的に参加した市民を表彰する「あさひ健康マイスター」、いつでも、どこでも、誰

ウイズ・アフターコロナの状況下においても、市民や事業者の皆さまの元気につながっていくものと、期待しております。

商品開発プロジェクト「旭色」

本市では、コロナ禍における事業者支援として、新商品開発へのチャレンジを支援する制度の創設や、地域の魅力商品を開発するプロジェクト「旭色」の推進に積極的に取り組み、多くの事業者にご活用いただいております。旭色では、飲食店26店舗に「紅茶」と名産の「いちじく」を生かした新商品やメニュー開発を行っていただき、大変好評いただいております。

こうしたコロナ禍におけるそれぞれの事業者のチャレンジに、私には明るく輝く未来を描くことができ、大変心強く感じています。同時に、さまざまな支援策を展開する中で、事業者の皆さまと行政との距離は確実に縮まり、そのネットワークは「密」になったとも感じています。

進化し続ける「健康都市」

本市は、WHOが提唱する「健康都市」のまちづくりの実現を目指しています。「健康都市」とは、健康を個人の責任としてのみ捉えるのではなく、都市そのものの健康を通して市民の健康を目指す都市のことです。平成16年に、WHO

でも行うことのできる筋力トレーニング「らくらく筋トレ」の普及などがあります。

こうした取り組みは市民の間にも定着し、「健康都市 尾張旭」は本市を象徴するブランドの一つになりました。また、WHOやスポーツ庁など、国の内外を問わず高い評価を受けており、健康都市のまちづくりはSDGsにもつながるものとして、国内外に向けて発信しています。

オンリーワンのまちづくり

この先、本市においても、人口が減少局面に転じ、さまざまな課題に直面する場面も多くなると予測されます。そうした中であっても、先人が築き守り続けてきた「住みよさ」を大切にし、「おいしい紅茶日本一のまち」「健康都市」をはじめ、本市の魅力を生かしたオンリーワンのまちづくりを進めていきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 21.03 km²
- ◆ 人口 8万3929人
- ◆ 世帯数 3万6601世帯

〔将来都市像〕みんなで支えあう 緑と元氣あふれる 住みよいまち 尾張旭

〔まちの特徴〕名古屋近郊に位置しながら、地域の6分の1を森林が占める自然に恵まれた住宅都市であり、日本紅茶協会が認定する「おいしい紅茶の店」の認定店の数が日本一のまち



尾張旭市長 森 和実



〔特産品〕朝採り完熟いちじく、プチヴェール

〔観光〕愛知県森林公園、スカイワイドあさひ、どうだん亭

〔イベント〕城山公園さくらまつり、あさひ健康フェスタ、尾張旭市民祭、紅茶フェスティバル

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

プロスポーツとの連携による まちの魅力づくり

田園都市・ちっこ

筑後市は、福岡県南部の筑後平野のほぼ中央に位置し、市の中心部で交差する2本の国道と九州自動車道八女ICによって、交通利便性を生かしたまちづくりを行ってきました。

さらに、平成23年3月に九州新幹線（鹿児島ルート）が全線開通すると同時に、市の南部に九州新幹線筑後船小屋駅が開業しました。新幹線駅は、鹿児島本線駅を併設す



HAWKSベースボールパーク筑後

るとともに、約200haの県内最大の都市公園である筑後広域公園や九州芸文館に隣接しており、広域交流拠点および観光・レクリエーション拠点として、駅周辺の土地利用がスタートしました。

急転直下の誘致合戦

平成25年夏に驚くべきニュースが九州の自治体を駆け巡りました。九州を中心に抜群の知名度を誇る福岡ソフトバンクホークスが、既存施設の老朽化に伴うファーム本拠地の移転を検討し、自治体に対して用地提案を募集しました。

九州5県34市町が名乗りを上げ、本市でも近隣市町からなる「筑後七国」を中心に、広域的・積極的な誘致合戦を展開した結果、平成25年12月にファーム本拠地の

誘致が決定しました。

その後、平成28年3月に、メインスタジアム、サブスタジアムに加え、室内練習場やクラブハウス、選手寮などを有するファーム本拠地「HAWKSベースボールパーク筑後」が開業しました。

この「HAWKSベースボールパーク筑後」ではウエスタン・リーグ公式戦（2軍）を中心に3軍戦や練習試合が行われ、年間約12万人の来場者が本市に訪れています。また、1軍オープン戦の開催や12球団合同トライアウト、スプリングキャンプの開催など、プロスポーツならではのイベントが行われています。

プロスポーツとの連携事業

本市では、全国各地のプロスポーツチームと連携している先進

自治体を参考にして、ホークスとの「包括連携協定」を締結し、さまざまな事業に取り組みんでいます。その趣旨は「双方が魅力を高め、ホークスの育成および強化、本市の地域活性化や市民サービスの向上を図ること」を目的としており、6項目32事業を推進しています。

特徴的な事業として一つ目は、「HAWKSベースボールパーク筑後」のメインスタジアム「タマホームスタジアム筑後（通称・タマ



タマスタ筑後でのグラウンドゴルフ大会



ふるさと納税返礼品贈呈式 (左=小久保2軍監督)



住民登録の出張手続き事業

「マスタ筑後」を使った本市イベントの開催です。普段入ることができない人工芝のグラウンドで、野球だけでなくさまざまなイベントを企画し、これまでに、市民グラウンドゴルフ大会や子ども会陸上大会、年長児を対象とした体力測定会などを開催してきました。

二つ目は、ホークス選手の訪問事業です。プロ野球選手をより身近に感じてもらうと、ホークス選手たちが市内の小学校などを訪問し、子どもたちとの交流やキャッチボールなどの実演を行いました。また、監督や新入団選手を市民に紹介するため「ホークス選手歓迎のつどい」を開催し、選手の紹介や交流抽選会などを行ってきました。

さらに、筑後七

国を構成する7市町も対象として、筑後七国ホークス応援大使に任命し、各自治体ポスターへの起用や地元巡りを行っています。

三つ目は、本市への住民登録の出張手続き事業です。新入団選手は数年間、選手寮に住み、本市で生活することになります。そのために必要な行政手続きを確実に漏れなく行うために、住民登録や国民健康保険、年金などを担当する職員が選手寮まで出張し、異動手続きなどを行っています。

このほかにも、土日の試合開催日を中心とした地元の飲食店の出店調整や小中学生の野球観戦招待・優待事業、花火大会の協賛など、「包括連携協定」に基づくさまざまな事業を進めています。そして、これらの事業はホークス連携を担当する部署だけで実施できるものではなく、他部署や関係団体の協力が不可欠であるため、支援協議会などを組織し、関係団体の連携やアイデア創出を図っています。

コロナ禍を経て、新たな連携を

コロナ禍によって2年間は、可

能な限りリモートでの対応や縮小開催に切り替えて実施しましたが、多くの事業が実施困難となりました。

その一方で、新たな連携事業も芽生えています。本年5月に本市にある二つの高等学校による野球部の交流試合がマスタ筑後で開催され、両校生徒の応援の下で野球を通じた交流が行われました。また、ふるさと納税の返礼品であ

プロフィール

- ◆ 面積 41・78 km²
- ◆ 人口 4万9246人
- ◆ 世帯数 2万445世帯

〔将来都市像〕自然と歴史、文化のうねに人の和を織りなして、住みよい活気に満ちたまち

〔まちの特徴〕恋にまつわる名所があるふれる「恋のくに」、スポーツが身近に感じられる「若鷹のまち」

〔特産品〕イチゴ（あまおう）、梨、ブ



筑後市長
西田正治



ドウ、八女茶、久留米餅、赤坂人形、船小屋鉦泉焼、花ごぎ

〔観光〕水田天満宮・恋木神社、船小屋温泉郷、HAWKSベースボールパーク筑後、筑後広域公園、九州芸文館

〔イベント〕餅の里巡りin筑後、久富盆綱曳き、ちっこ祭り恋のくに花火大会、水田天満宮稚児風流、させる祭り、ちっこマラソン

るイチゴや地酒、はんでんなどをホークス選手に贈呈し、マスコミ報道や選手のSNS掲載などで本市のPRに貢献しました。

今後もアフターコロナに向けて、プロスポーツとの新たな連携を模索しながら、「若鷹のまち」というブランド力を最大限に活用し、市のイメージアップと活気のあるまちづくりを推進していきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。